

- 1 インド洋ばかり見ている昭和の日
- 2 大池にぼとんぽとんと今朝の夏
- 3 大喧嘩男はみんなみんなたけのこ
- 4 待つ人と待たれる人と筍と
- 5 欠席の理由問われて花水木
- 6 夏の雲マツキンリーといえ、そう
- 7 目玉焼並みに別れを告げて夏
- 8 市ヶ谷の坂転がって梅雨晴れ間
- 9 市営球場ライトスタンド虎が雨
- 10 ローリング・ストーンズ的に蠅叩く
- 11 緑陰に真面目な猫と居てあくび
- 12 かくしごと得意なんです額の花
- 13 サークスの虎空向いて紫陽花忌
- 14 蛇衣を脱ぐ三度目のデートかな
- 15 オニオンスープはゆれて娘と父とい
- 16 君に問うそつと玉葱剥くように
- 17 猫の目を持つ人といて水中花
- 18 心太ざこば師匠は六番目
- 19 鬼ごっこ夏蜜柑までいこうかな
- 20 蝉の声目次通りに本を読む
- 21 地凶にない町にもきつと蝉時雨
- 22 土用入網目麒麟の絵を描いて
- 23 目の粗いざるで掬って夏休み
- 24 三毛猫と虎猫といて稲の花
- 25 霊長目ヒト科のオトコ庭花火
- 26 初嵐かかとの傷にふれていく
- 27 遠花火海岸線はS字形
- 28 ひぐらしに呼ばれてここに来たような
- 29 左折ばかりしていたいのよ秋の蝉
- 30 空海の話三度目赤とんぼ
- 31 あきらめて二百十日の深海魚
- 32 泣き顔もさかさまスプーンの夜長かな
- 33 わりばしのささくれほどの別れ、秋
- 34 今日だけはキスしていいよ星月夜
- 35 順位付けされたくない日遼空忌
- 36 蛇穴に入る実年齢は、ナイショ
- 37 台風圏に現実逃避蔓延す
- 38 見つめられポツとなります十三夜
- 39 いいとこでゆりおこされていわし雲
- 40 秋燕手紙を待っていて、ひとり
- 41 映画ならここで抱かれる虫時雨
- 42 脈打って迷宮入りの夜長かな
- 43 虫ゴムがもう駄目らしい九月尽
- 44 無花果も悩みも今宵ぐにやぐにやと
- 45 林檎忌と決めて時計の十二待つ
- 46 アパラチア山脈寄りのいのこづち
- 47 年尾の忌椎名林檎を聴きながら
- 48 可能性の話はやめて石榴落つ
- 49 柘榴ほどの優しさあれば許すけど
- 50 喧嘩止み後はざくろの時間かな

- 51 冬構え足の親指引つ張って
 52 両耳が明日は冬だと言っている
 53 立冬のきのこ会議の白熱す
 54 凍月に男はビオラ抱いたまま
 55 さざんかの博愛主義を疑って
 56 牡蠣鍋を間に置いて奴と会う
 57 着ぶくれてマッシュルームを買う私
 58 初便り七光でもいいやんか
 59 都道府県に光の字ないな去年今年
 60 バイオリン、花束、小雪、あと何よ
 61 虎落笛安全牌は捨て切った
 62 寒卵ホルン奏者の恋心
 63 氷柱屋と呼んでた家はその辺り
 64 せんべいの裏表問う義仲忌
 65 大寒に置いてけぼりのハーモニカ
 66 隣室のカスタネットや日脚伸ぶ
 67 フルートを吹くくちびるで春隣
 68 羊糞をすばんすばんと寒の明け
 69 梅東風は大黒坂をすぎたころ
 70 猫の恋東通りのど真ん中
 71 ポッキーをポキポキ食べて梅の夜
 72 三叉路の警官新顔梅香る
 73 下萌にやや照れくさいミルフィーユ
 74 目鼻立ち誰にも似ない赤光忌
 75 板チョコをぱきつとわって冴え返る
- 76 チョコプリン提げて椿を駆け抜けて
 77 啓蟄の低空飛行見ないふり
 78 春疾風二の腕ぐいと掴まれて
 79 キスと書きたい十一問目大試験
 80 キャラメルが迷子なんです春の山
 81 多忙です春分の日の蝶番
 82 山笑うベビーカステラ量り売り
 83 桜餅キスするように食む人よ
 84 複素数平面白い蝶がゆく
 85 春の鹿わざと忘れてきたんです
 86 結論はすぐそこなのに蝶生る
 87 呑気だと言われて黙る紫木蓮
 88 鼻のかたちを思い出せない花曇
 89 室伏のハンマーも飛ぶ花の雲
 90 花咲いて今日も明日のために寝る
 91 キス最少単位はふたり啄木忌
 92 メトロノームは次第に速く桜咲く
 93 禁教の記憶は遠くムツゴロウ
 94 女四人禁句は禁句薊咲く
 95 いしぼたん腹減ったから帰りましょ
 96 桜降るおっぱいちよつと恋しくて
 97 革命的キスせむ今日が春の果
 98 やさしさにどこか似てるな葉桜は
 99 少年は笥胸に闇の二つ三つ
 100 ブラウスを脱いで私も額の花